

★学校の教育目標	○しっかり学ぶ子 ○心やさしい子 ○たくましい子	★重点計画の概要	プロジェクト名「やりたい」を「やってみよう」プロジェクト 正解のない社会で生きていく子供たちには、学力調査等図ることのできる狭義の学力だけでなく、他者との豊かな関りを通して多くのことにもまれ、タフでコミュニケーション豊かな大人に育ってほしいという願いがある。 ①各教員の得意分野や「やりたい」を学校・学年・学級経営にいかす。 ②教育活動の端々に「かつやく」の機会を取り入れる。
★目指す学校像（ビジョン）			
【目指す児童像】	多くのことにもまれる経験をもつ、タフでコミュニケーション力のある子ども		
【目指す学校像】	自己肯定感（効力感・有用感）の醸成を図ることのできる学校（児童全員の居場所と「かつやく」の場がある学校		
【目指す教師像】	授業改善に努める教員（かんがえる） 毅然とした指導のできる教員（つよい） 児童に寄り添い良さを伸ばす教員（やさしい） 課題を組織で解決する教員（くじけない）		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策	
				評価点	取組指標	評価点	成果指標			
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	多様性を認め、課題を解決したり困難を乗り越えたりする資質を育む。	話し合い活動を通して、対話による課題解決のよさを、児童が実感できるようにする。	①学級活動等を通して、話し合いの仕方や、合意形成・意思決定の仕方を身に付けさせる。 ②ペア学習、グループ学習、協働学習等の機会を他教科にも広げ、児童が対話によって学習を進めることよさを味わえるようにする。	4	90%以上の教員が、①②に対する肯定的な回答を行った。	4	4	90%以上の児童が、①②に関する肯定的な回答を行った。	人は皆違ふと知りつつ、ひるまず想いを伝え合う力は、生きていく土台です。幼い頃から悩み、譲り合いを学ぶ経験は宝物です。相手の声を聞き、皆で考える時間を大切に、これからも温かな対話を続けてください。	学級・学年・学校は小さな社会です。この中で人とのかかわりを円滑にする手段を身に付けてほしいと願い、合意形成や意思決定の力を高めることを心掛けた。ペアやグループ・学級会での話し合いを意図的に実施した教員が多く見られ、互いの考えを大切にしようとする風土が育っています。
				3	85%以上の教員が、①②に対する肯定的な回答を行った。	3	3	85%以上の児童が、①②に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、①②に対する肯定的な回答を行った。	2	2	80%以上の児童が、①②に関する肯定的な回答を行った。		
				1	①②に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	1	①②に対する肯定的な回答が80%未満だった。		
	自発的な活動を通して、自らの生活環境を改善させようとする資質を育む。	教育活動の様々な場面における活躍の機会や、集団づくりの機会を通して、自治的な活動の楽しさを実感できるようにする。	③係活動・実行委員制度、異学年交流等を効果的に活用し、集団のために貢献する経験や、企画運営をすることの楽しさや難しさを味わわせる。 ④キャリアパスポートを活用し、自己の強みや可能性、次への見通し等を肯定的に捉えられるようにする。	4	90%以上の教員が、③④に対する肯定的な回答を行った。	4	4	90%以上の児童が、③④に関する肯定的な回答を行った。	人に教えることで学びは深まります。自分の喜びと誰かのために両立する活動は、人生を支える力になります。いい人で終わらず自分らしさを出すには、仲間が存在が不可欠です。一人で頑張る限界を知り、協力し合う歩みをこれからも大切に続けてください。	自分に自信がもてるように、他人のために役に立つ経験をたっぷり味わわせることを大事にしてきました。学年による違いはありましたが、係活動・委員会やクラブ活動・縦割り活動の他、学年内の実行委員制度・異学年交流など、児童の発達段階に応じたかつやくの機会が見られました。
				3	85%以上の教員が、③④に対する肯定的な回答を行った。	3	3	85%以上の児童が、③④に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、③④に対する肯定的な回答を行った。	2	2	80%以上の児童が、③④に関する肯定的な回答を行った。		
				1	③④に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	1	③④に対する肯定的な回答が80%未満だった。		
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	生活に必要な基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。	基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、児童が「できた」「分かった」「役に立った」を実感できるような学習活動を工夫する。	⑤すべての授業において、めあての提示を徹底し、学習のねらいを明確にした構造的な学習を展開する。また、ねらいが達成できたかどうかのふりかえりを確実に行う。 ⑥授業のユニバーサルデザイン化を目指す。特に「視覚化」「焦点化」「共有化」を単元内に意図的に取り入れ、児童にとって分かりやすい授業を創造する。	4	90%以上の教員が、⑤⑥に対する肯定的な回答を行った。	4	4	90%以上の児童が、⑤⑥に関する肯定的な回答を行った。	先生が一人ひとりに寄り添う姿は尊いですが、無理なく続けられる形を願っています。分らないことを「恥ずかしい」と思わず、気軽に言える空気が作りが大切です。個を尊重する積み重ねこそが学びの土台です。これからもこの歩みを止めずに続けてください。	一日の約6割をしめる授業時間は、自己肯定感を醸成する絶好の機会ととらえ、「できた・分かった・役に立った」を味わえる授業改善を目指しました。児童からの肯定的な回答が95%を超えるなど最も高い回答率となりました。ねらいを明確にした分かりやすい指導を心掛けることはかなり定着したと思います。
				3	85%以上の教員が、⑤⑥に対する肯定的な回答を行った。	3	3	85%以上の児童が、⑤⑥に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、⑤⑥に対する肯定的な回答を行った。	2	2	80%以上の児童が、⑤⑥に関する肯定的な回答を行った。		
				1	⑤⑥に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	1	⑤⑥に対する肯定的な回答が80%未満だった。		
	課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。	「教える」学習活動から、児童が主体的、対話的に深く「学び」学習を意図的に取り入れる。	⑦生活科・総合的な学習の時間（ゆりの木タイム）を中心に、すべての教科において、児童が課題を追究したり、解決したりする活動を意図的に取り入れ、探究的な学びの楽しさを味わわせる。 ⑧校内研究を通して、自らの考えを広げ、深めることのできる授業改善を目指す。特に対話することの必然性を重視し、学び合いが効果的に行われるよう工夫をする。	4	90%以上の教員が、⑦⑧に対する肯定的な回答を行った。	3	4	90%以上の児童が、⑦⑧に関する肯定的な回答を行った。	地域での体験は将来に役立つ宝物であり、続けるべきです。今後は地域のかや人をさらに活かし、学びを広げていくことを願っています。学校と地域が手を取り合い、社会全体で子供たちの成長を支える環境作りを、これからも力強く進めていってください。	主体的に学ぶ力を身に付けるには、教師主導だけに頼らない授業形態が必要です。そこで、自ら課題を追究したり、対話を通して考えを深めたりすることを大切にしました。特に校内研究において、必然的に対話が生まれるような仕掛けを皆で考えたことが各教員の授業改善につながりました。
				3	85%以上の教員が、⑦⑧に対する肯定的な回答を行った。	3	3	85%以上の児童が、⑦⑧に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、⑦⑧に対する肯定的な回答を行った。	2	2	80%以上の児童が、⑦⑧に関する肯定的な回答を行った。		
				1	⑦⑧に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	1	⑦⑧に対する肯定的な回答が80%未満だった。		
社会と未来に関き、みんなで作る	地域のよさや、そこで生きていることへの愛着心を高める。	地域の教育的資源を積極的に取り入れた教育活動を通して、本物（人・もの）と触れ合う体験を意図的に取り入れる。	⑨全学年で、地域人材や関係機関等、多様な人材と関わりを通して、動機付け・情報収集・まとめ表現等の学習活動に厚みを持たせる。 ⑩学習したことの成果を異学年・保護者や地域人材等に発信する機会を積極的に取り入れ、相手意識を高められるようにする。	4	90%以上の教員が、⑨⑩に対する肯定的な回答を行った。	1	4	90%以上の児童が、⑨⑩に関する肯定的な回答を行った。	町探検の発表会は、子供たちが助け合い自信を深める姿が見られ、とても有意義でした。今後は、質問に答える力をさらに伸ばしてほしいです。また、場所が狭く聞き取りにくい場面もあったため、会場作りも工夫しましょう。保護者の皆様の参観も、節度があり素敵でした。	2月の学習発表会では全学年が学びの成果を発表でき、多くの称賛をいただきましたが、児童の3割は発表することへの苦手意識をもっていることが分かりました。低学年の生活科プロジェクト、中学年の地域・福祉体験、高学年の住みよい街プロジェクト等、多様な人材とのかかわりを工夫していきます。
				3	85%以上の教員が、⑨⑩に対する肯定的な回答を行った。	3	3	85%以上の児童が、⑨⑩に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、⑨⑩に対する肯定的な回答を行った。	2	2	80%以上の児童が、⑨⑩に関する肯定的な回答を行った。		
				1	⑨⑩に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	1	⑨⑩に対する肯定的な回答が80%未満だった。		
	より多くの目で組織的に児童を育成しようとする風土を育てる。	学年経営を重視し、全児童を全教職員で育成しようとする意識を高める。	⑪学年会や分科会等を通して各教員の得意分野や「やってみよう」を積極的に取り入れる等、前年踏襲ばかりに頼らないスクラップ&ビルドに挑戦する。 ⑫交換授業・合同授業・一部教科担任制・副担任（CO）としての関わりを積極的に行い、学年の全児童をチームで育てていくという教員の意識を高める。	4	90%以上の教員が、⑪⑫に対する肯定的な回答を行った。	4	4	90%以上の児童が、⑪⑫に関する肯定的な回答を行った。	体験で好奇心を育むことは将来に繋がる素敵な活動で、先生方の明るい連携も子供の安心感を生んでいます。一方、会場作りや受け答えには工夫の余地があります。これからも地域の力を借りて、子供が多岐にワクワクを感じられる環境作りを進めてください。	教職員がワクワクすれば、児童もワクワクするはずであるという仮説のもと、負担感をやりがいに変えることを年間の大テーマとしてきました。教職員がそれぞれの持ち味を發揮し、児童にとって魅力的な学校生活を彩ったことで、不登校の出現率も低い数値で維持させることができました。
				3	85%以上の教員が、⑪⑫に対する肯定的な回答を行った。	3	3	85%以上の児童が、⑪⑫に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、⑪⑫に対する肯定的な回答を行った。	2	2	80%以上の児童が、⑪⑫に関する肯定的な回答を行った。		
				1	⑪⑫に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	1	⑪⑫に対する肯定的な回答が80%未満だった。		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。